M3 ミニシンポジウム３　　２日目(9 月 16 日)

「ポストゲノム時代の天然物探索」

開催趣旨

医薬学応用を目指したゲノム、プロテオームの研究はここ数十年で大きく進んだが、その成果を薬として社会へ幅広く還元するには化学的に安定な化合物が最終形となる。現在流通する医薬品の大多数が天然物にヒントを得ており、今後の情報洪水の中でこそ天然物の重要性は増すだろう。本シンポジウムではデータ中心科学(data-intensive science)と従来の天然物探索の稜線を歩む気鋭の研究者を招き、天然物探索の現状と今後について議論する。

座長：有田正規（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

プログラム

M3-1 : 13:30-14:15
「新規抗腫瘍活性物質プラジエノライド誘導体の効率的一段発酵生産に対する遺伝子的アプローチ」
町田和弘（メルシャン株式会社生物資源研究所）

M3-2 : 14:15-15:00
「ゲノムと構造から見た原核微生物と真核微生物の二次代謝物の比較」
五十嵐康弘（富山県立大学生物工学研究センター）

M3-3 : 15:00-15:45
「植物創薬：代謝多様性と生合成デザイン」
村中俊哉（大阪大学大学院工学研究科）

15:45-16:00
まとめ
有田正規（東京大学大学院新領域創成科学研究科）